

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00337

研究課題名（和文）古代・中世日本における廃墟の文化史

研究課題名（英文）Cultural history of the ruins in ancient and medieval Japan

研究代表者

木下 華子（KINOSHITA, Hanako）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：10609605

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の古代・中世における「廃墟」を文学・美術・芸能・歴史・宗教等の視点から総合的に検討・考究するものである。2020年度に5回、2021年度に4回、2022年度に1回、計10回の定例研究会を開催した。加えて、2022年度は神奈川県立金沢文庫での本研究による展示（2023年度秋開催）のために資料調査を実施、研究総括としての国際シンポジウム「古代・中世日本における廃墟の文化史」を行った。3年間の研究成果は35件の雑誌論文、5件の著書、13件の学会発表・講演、1件の国際研究集会である。これらを通して、日本文化史における廃墟論の学術的フレームを創出し、新たな研究の局面を拓いたと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、まず、日本の古代・中世における文学・美術・芸能・歴史・宗教等の資料を対象として、廃墟を表象する様々な表現のあり方とそのコードとしての役割を解明したことにある。また、これらの表象研究の成果を通して、廃墟が文化の再生・胚胎を可能とする機能的な場であることを、様々な作品・資料から明らかにしたことも特筆すべきものだろう。戦乱や自然災害、多くの社会変動に見舞われた日本の古代・中世において、人々が何を廃墟と見、廃墟に何を託したかを理解し、その機能を文化的・歴史的に解明することは、自然災害が頻発する現代において、廃墟と向き合う私たちの思考や思索を可視化・相対化することに寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：This study comprehensively examines and studies "ruins" in ancient and medieval Japan from the viewpoints of literature, art, performing arts, history, religion, etc. We have held a total of 10 regular study sessions: 5 in FY2020, 4 in FY2021, and 1 in FY2022. In addition, in FY2022, we conducted a survey of materials for an exhibition at the Kanagawa Prefectural Kanazawa Bunko (to be held in the fall of FY2023). And we held an international symposium "Cultural History of Ruins in Ancient and Medieval Japan" as a summary of our research. As a result of our three-year research, we published 35 journal articles and five books, and gave 13 presentations and lectures at academic conferences and 1 international research meeting. Through these efforts, we believe we have created an academic frame for the theory of ruins in Japanese cultural history and opened up a new phase of study.

研究分野：中世日本文学

キーワード：日本文学 美術史学 中世 古代 日本文化史 中国

## 1. 研究開始当初の背景

西洋においては、17世紀末以降にイギリスで流行したグランドツアーや、イギリス人画家が用いた「ピクチャレスク」という概念を通じて、廃墟への関心が高まった。ここで意識される廃墟とは、何世紀もの間、崩壊していく姿をさらし続けたローマのコロッセウムに代表される古代の石造りの建造物である。日本には、それに匹敵するような石造りの建造物は存在しない。そのため、従来の廃墟論においては、近代になってヨーロッパから廃墟を主題とする絵画やピクチャレスクといった視点が輸入される以前には、日本においてヨーロッパ的な廃墟を主題とした文学や美術は存在しないと見なされる傾向にある。

例えば、日本の近代以前の廃墟の例として、『万葉集』に載る柿本人麻呂が詠じた近江荒都歌や、芭蕉の『奥の細道』の平泉の記述へ言及される場合でも、ヨーロッパの廃墟や、廃墟に向けられた視線とは異なるということだけが指摘され、それらの文化史的意味にまで論が深められることはなかった。そのため、宗教思想・時代思潮との関係や、中国大陸からの文化の移入と変容といった視点から、日本の廃墟が十分に論じられてきたとは言いがたい。

また、これまで日本の文学・美術・演劇の廃墟の表象に触れる際に、中世という時代への視点がほとんど抜け落ちていることも問題であった。中世は、うち続いた戦乱や自然災害、武士という新興勢力の勃興や鎌倉新仏教の成立があって、大きな社会変動がおき、人々の目に大規模な廃墟が可視化される機会が多かった時代である。

そこで、本研究では廃墟の意味を広く捉えなおすことで、日本における廃墟の文化史的再検証を試みる。現存する寺院跡や柱石、絵画資料・記録・伝承・物語・随筆・紀行などに表される、荒廃した建造物、人々の記憶の中に長らく残存し続けた旧都のイメージを、広義の廃墟として捉えることができるのではないかと。また、うち捨てられて崩れゆく姿を、数年あるいは数十年の単位で、市街地や人里離れた山奥にさらしている木造の廃屋も、一時的なものではあるが廃墟と考えることができよう。そのように捉えるならば、古代以降、日本のいたるところに廃墟は存在し、文学や美術、芸能などにその表象を見いだすことができる。

さらに、廃墟はただ崩壊と変容を顕在させるのみならず、文化の再生/胚胎の場となり得る(例えば、平安時代中期、廃墟であった河原院には歌人が集い、歌が生み出される場として機能している)。そこに端的に表れるように、機能論から廃墟を検討することも、日本の廃墟論を構築する上で有効だと考える。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本古代・中世における廃墟を、文学・美術・芸能・歴史・宗教にわたる視点から総合的に研究することである。具体的な問題設定は、以下の4点にまとめられる。

日本の古代・中世の文学・美術・芸能において、廃墟はいかに表象され、また、その表象はいかに変容していくのか。

古代・中世における廃墟の表象は、当時の政情や時代思潮・宗教思想と、どのように切り結ぶのか。

東アジアの廃墟という視点から、日本の廃墟はどのように定位できるのか。

廃墟が、文化の再生/胚胎の場として機能するのはなぜか。

## 3. 研究の方法

本研究では、異なる専門を持つ研究者7名で研究会を組織し、討議しつつ研究を進めた。具体的に

は、文学分野では物語・紀行・随筆・軍記・五山文学・和歌・謡曲の領域、美術史分野では宗教絵画・説話画の領域を専門とする研究者が集まって、学際的な場としての研究会を設定する。それぞれの専門に基づいた研究発表に対し、異なる専門からの意見・批判を受け、そのことによって自らの専門領域を相対化し、互いの成果を互恵的に統合する方法である。学際的な研究は、廃墟というテーマを複眼的な視点から考察し、互いの成果を連関させることを可能にするのみならず、単独の専門分野での研究を大きく超える成果を導くことが期待される。具体的には、以下のような形で共同研究を進めた。

#### 定例研究会の開催

1年間に複数回の定期研究会を開催し、本研究の代表者及び分担者による研究成果報告を行う。本研究の期間である3年間は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行期間と重なったため、対面での研究会の開催は数回に限られたが、オンライン会議システムを用いることで、計11回(2020年度=5回、2021年度=4回、2022年度=1回)の定例研究会を実施できた。

#### 研究集会またはシンポジウムの開催

本研究の代表者及び分担者に外部からの講演者を加えて、公開形式で実施する。最終年度となった2022年度は、本研究の総括として国際シンポジウムを実施し、本研究メンバーの研究発表に加え、海外の研究者及び西洋美術の研究者を招いてのディスカッションを行った。

#### 共同調査

本研究成果の社会への還元を企図し、神奈川県立金沢文庫において特別展を行うため(詳細は )、2022年9月に金沢文庫での資料調査を実施した。

#### 成果報告

本研究による成果を書籍として刊行する(2024年秋を予定)。

#### 展覧会の開催

本研究による成果を踏まえた展覧会を企画し、一般への普及に努める。神奈川県立金沢文庫において特別展「廃墟とイメージ 憧憬、復興、文化生成の場としての廃墟」(2023年9月29日~11月26日)を開催することが決定している。

## 4. 研究成果

本研究の成果は、大きく表象研究での達成と機能論への発展にまとめられよう。まず、日本の古代・中世における文学・美術・芸能・歴史・宗教等の資料を対象として、それぞれの領域において、廃墟を表象する様々な表現のあり方が明らかになった。また、これらの表象研究の成果を統合すると、文学・美術というジャンル、そして時代を超えて廃墟を表象するコードが歴史的に育まれており、それが変容を含みながらも広く共有されていたことも理解される。異なる時代・専門分野の研究者が集まる学際的な共同研究によってこそ可能になった成果である。

廃墟の表象としてのコードの存在と共有は、廃墟が構造物・建築物としてのあり方を超える現象であることを意味する。本研究では、廃墟が文化の再生・胚胎を可能とする機能を含み、そのような言説・場は日本文学史や美術史を通して頻々と確認されることを明らかにした。様々な作品において廃墟がモチーフとなった時、そこには場面・文脈・物語が形成され、廃墟への眼差しが作品を生み出す契機となっている。このような廃墟の文化的機能を明らかにしたことも、本研究の大きな成果である。

本研究では、成果として35件の雑誌論文、5件の著書、13件の学会発表・講演が挙げられるが、特筆すべきは、以下の2点である。

研究成果の社会還元と一般への普及を目指した展覧会

神奈川県立金沢文庫において、特別展「廃墟とイメージ 憧憬、復興、文化生成の場としての廃墟」(2023年9月29日～11月26日)を開催。

#### 研究総括としての国際研究集会

国際シンポジウム「古代・中世日本における廃墟の文化史」(2023年3月18日、於:早稲田大学)を開催。本研究構成員の発表としては、陣野英則「『うつほ物語』と『源氏物語』における廃墟的な場」、渡邊裕美子「廃墟と詠歌 遍照寺を中心として」、木下華子「歌枕と廃墟 紀行文を中心に」、堀川貴司「五山文学における廃墟の表象」、山本聡美「経説と廃墟 発心の場としての身体、建築、伽藍、都市」、梅沢恵「『一遍聖絵』に描かれた荒廃する社 大三島社(巻十第三段の描写をめぐって)、山中玲子「能 融 が描く場 誰が何を見ているのか」である。加えて、マリア・サルバドール(ハーバード大学博士後期課程)の発表「From Ruins to Salvation Death and Hell in the Kasuga Faith(廃墟から救済へ 春日信仰における死と地獄の思想)」、及び、ハルオ・シラネ(コロンビア大学)と佐藤直樹(東京藝術大学)をコメンテーターに招いてのディスカッションを行い、国際的・学際的な廃墟研究の可能性を確認・共有した。

本研究が対象とする廃墟は、戦乱や自然災害、多くの社会変動に見舞われた日本の古代・中世において、人々の眼前に顕在していた。本研究が目指したものは、彼らの廃墟への眼差しとその表現のあり方を問い、その機能を文化的・歴史的に解明することである。そして、本研究の問題意識は、現代日本が抱えるそれと大きく関連しよう。地震や水害に代表されるような自然災害が頻発する現代において、私たちはその痕跡としての廃墟と向き合い、社会の中に廃墟を包摂しながら歩むことになる。本研究は前近代における廃墟を対象としたが、そのプロセスと成果は、私たちの思考や思索を歴史的な時間の中で可視化・相対化することを可能とするだろう。本研究は、表象論及び機能論の観点から古代・中世日本における廃墟をめぐる学術的フレームを確立し、廃墟論という新たな研究を拓いた。それと同時に、前近代・近代という時代の枠組を超えて問題意識と議論の共有を可能にするプラットフォームの創出を行ったと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 木下華子	4. 巻 17
2. 論文標題 『東関紀行』における旅の造型	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学国文学論集	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 木下華子	4. 巻 12
2. 論文標題 「不思議」なる災害観	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 跨境：日本語文学研究	6. 最初と最後の頁 4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山中玲子	4. 巻 58
2. 論文標題 能《半部》のワキ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 むらさき	6. 最初と最後の頁 70-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕美子	4. 巻 98-111
2. 論文標題 慈光寺本『承久記』の和歌－長歌贈答が語るもの－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 77-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕美子	4. 巻 20
2. 論文標題 彷徨する寂蓮—寿永百首家集『寂蓮集』雑歌をめぐって—	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 118-4
2. 論文標題 愛執と発心：朽ちてゆく死体へのまなざし	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学燈	6. 最初と最後の頁 10-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 95-2
2. 論文標題 善知識としての病 古代日本における仏教美術と疫病	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 121-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 43
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「貝あはせ」論 観音信仰を虚仮にする物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代中世文学論考	6. 最初と最後の頁 203 - 223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川貴司	4. 巻 なし
2. 論文標題 五山版をどう考えるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 藤本幸夫編『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』	6. 最初と最後の頁 278-293
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅沢恵	4. 巻 347
2. 論文標題 新出の三十日秘仏像	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金沢文庫研究	6. 最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅沢恵	4. 巻 436
2. 論文標題 鬼神を主題とする中世絵巻 「辟邪絵」・「勘当の鬼」・詞書断簡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 385-409
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下華子	4. 巻 なし
2. 論文標題 早蕨巻の時間意識 回帰する時間・直進する時間	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編『源氏物語を開く』	6. 最初と最後の頁 603-614
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下華子	4. 巻 なし
2. 論文標題 『方丈記』養和の飢饉に見る疫病と祈り	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ロバート・キャンベル編著『日本古典と感染症』	6. 最初と最後の頁 68-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下華子	4. 巻 16
2. 論文標題 高野山大学図書館蔵(金剛三昧院寄託)『南海流浪記』の翻刻と紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学国文学論集	6. 最初と最後の頁 123-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美(馬如慧翻訳)	4. 巻 30
2. 論文標題 試論《伴大納言絵巻》中経説的運用 伴善男宅邸中の破戒主題(邦題:「伴大納言絵巻」における経説の利用 伴善男邸に描かれた破戒のモチーフ)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本学研究	6. 最初と最後の頁 193-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本聡美(フランソワ=カール・グシュヴェント翻訳)	4. 巻 2020-1
2. 論文標題 De la Voie des esprits demoniaques a la Voie des titans: Reconsideration sur les peintures talismaniques (邦題:鬼神道から阿修羅道へ 辟邪絵再考)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PERSPECTIVE	6. 最初と最後の頁 167-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 66
2. 論文標題 疫病と美術 日本中世絵画に描かれた疫鬼	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 325-335
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 2
2. 論文標題 発心の図像 中世仏教説話画に描かれた病と障害	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 障害史研究	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 772
2. 論文標題 「鳥獣戯画」乙巻の主題と世界観 動物たちの悪心と報恩	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 123-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川貴司	4. 巻 東アジア文化講座4
2. 論文標題 詩歌と絵画・画賛の文化 日本中世禅林を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ハルオ・シラネ編 『東アジアの自然観 東アジアの環境と風俗』	6. 最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅沢恵	4. 巻 なし
2. 論文標題 日本に伝来した陸信忠画 称名寺本陸信忠筆十王図を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア仏教美術論集東アジア 南宋・大理・金	6. 最初と最後の頁 223-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 66
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「思はぬ方にとまりする少将」論 多様な女房たちの標本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 なし
2. 論文標題 『堤中納言物語』 「虫めづる姫君」の主人公と女房たち 異質さとのかわり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 久保朝孝編 『危機下の中古文学2020』	6. 最初と最後の頁 283-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕美子	4. 巻 なし
2. 論文標題 『千載和歌集』の成立過程－「うちぎき」から勅撰集へ－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『和歌史の中世から近世へ』	6. 最初と最後の頁 119-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中玲子	4. 巻 なし
2. 論文標題 修羅能以前の『平家の能』 経盛 の再検討を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 松尾葦江編『無常の鐘声 平家物語』	6. 最初と最後の頁 213-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下華子	4. 巻 99 (8)
2. 論文標題 『海道記』の叙述方法 古典引用と和歌を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀川貴司	4. 巻 275
2. 論文標題 唐物としての書と書物 無学祖元を例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 245-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中玲子	4. 巻 47
2. 論文標題 《半部》の小書「立花供養」の諸相	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 能楽研究	6. 最初と最後の頁 115-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕美子	4. 巻 なし
2. 論文標題 描かれた歌枕－歌と絵を同時に鑑賞すること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 サントリー美術館『歌枕 あなたの知らない心の風景』	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊裕美子	4. 巻 なし
2. 論文標題 『百人一首』と歌仙絵	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『百人一首の現在』	6. 最初と最後の頁 146-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅沢恵	4. 巻 275
2. 論文標題 「鎌倉の「唐物」 金沢北条氏ゆかりの称名寺伝来品	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 59-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梅沢恵	4. 巻 1519
2. 論文標題 円覚寺の文化財 宝物が語る円覚寺史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 國華	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則（馬如慧 訳）	4. 巻 1
2. 論文標題 試論《源氏物語・少女》中の漢詩文引用 以引用陸機《豪士賦序》の意義爲例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『文獻・文學・文化：中日古典學交流與融通工作坊論集』	6. 最初と最後の頁 130-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 68
2. 論文標題 吉備真備の才藝と本朝仏神の感応 「吉備大臣入唐絵巻」の構造	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 774-756
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本聡美	4. 巻 438
2. 論文標題 聖衆來迎寺本「六道絵」と如法経供養の儀礼空間 閻魔堂建築から「閻魔王庁幅」への中世的展開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 美術研究	6. 最初と最後の頁 81-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 9件／うち国際学会 5件）

1. 発表者名 木下華子
2. 発表標題 中世日本文学と感染症 『方丈記』『徒然草』を中心に
3. 学会等名 台湾大学日本研究センター主催国際学術フォーラム「ポストコロナ時代を考える日本研究 人文学と社会科学からのアプローチ」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 横川靈山院の六道絵 『往生要集』からの飛躍
3. 学会等名 仏教文学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』と文学理論における相互作用
3. 学会等名 第12回 東アジア人文学フォーラム（第十二屆東亞人文學論壇「典範轉移 東亞文化的互動與整合」）（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木下華子
2. 発表標題 『方丈記』 「都遷り」の生成と遷都をめぐる表現史
3. 学会等名 説話文学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山中玲子
2. 発表標題 パフォーマンスの規則と記録
3. 学会等名 日本古典籍セミナー「パフォーマンスと表象」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 渡邊裕美子
2. 発表標題 歌枕の魅力ー時空を超える”旅”
3. 学会等名 サントリー美術館講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 修羅と鎮魂の六道語り
3. 学会等名 海の見える杜美術館「平家物語絵」展記念講演会「描かれた平家物語」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 愛執と鬨諍の図像 中世文学と仏教説話画
3. 学会等名 中世文学会春季大会 シンポジウム「中世文学と絵画」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 Buddhism and Court Art: The Sacred and Secular in Japanese Medieval Arts
3. 学会等名 5TH SWISS CONGRESS FOR ART HISTORY（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 善知識としての災厄 仏教美術と疫病
3. 学会等名 朝鮮大学校 災難人文学研究事業団 《東アジアの災難に関する研究ネットワーク構築事業 / 国内外優秀学者特別講演》(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 軍記と女性 建礼門院六道語りと中世合戦図
3. 学会等名 総合女性史学会2022年度大会 危機・ジェンダー・表象の歴史学 描く女 / 描かれる女(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本聡美
2. 発表標題 図像の生命誌 意味と形のあわい
3. 学会等名 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター「宗教遺産をめぐる真正性 宗教遺産テキスト学の発展的展開」(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 木俣元一, 近本謙介編/宮治昭, 上枝いづみ, 影山悦子, 檜山智美, 濱田瑞美, 森雅秀, 大谷由香, 荒見泰史, 程永超, 横内裕人, 三好俊徳, 富島義幸, 本井牧子, 児島大輔, 猪瀬千尋, 山本聡美, 鴈野佳世子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 728
3. 書名 宗教遺産テキスト学の創成	

1. 著者名 寺田澄江・陣野英則・木村朗子 共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青簡舎	5. 総ページ数 434
3. 書名 2020年国際オンラインラウンドテーブル 身と心の位相 源氏物語を起点として	

1. 著者名 長村祥知編 / 有賀茜, 石野浩司, 梅沢恵, 小倉嘉夫, 木下亀馬, 末兼俊彦, 中司健一, 長村祥知, 西谷功, 貫井裕恵, 藤原重雄, 堀川康史, 山岡瞳執筆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都府京都文化博物館、読売新聞社	5. 総ページ数 240
3. 書名 よみがえる承久の乱 後鳥羽上皇VS鎌倉北条氏	

1. 著者名 梅沢恵 (共著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 神奈川県立金沢文庫展覧会図録	5. 総ページ数 112
3. 書名 『武蔵国鶴見寺尾郷絵図の世界』	

1. 著者名 陣野英則	4. 発行年 2022年
2. 出版社 新典社	5. 総ページ数 320
3. 書名 堤中納言物語論 読者・諧謔・模倣	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 聡美  (YAMAMOTO Satomi)  (00366999)	早稲田大学・文学学術院・教授   (32689)	
研究分担者	堀川 貴司  (HORIKAWA Takashi)  (20229230)	慶應義塾大学・斯道文庫(三田)・教授   (32612)	
研究分担者	渡邊 裕美子  (WATANABE Yumiko)  (30713078)	立正大学・文学部・教授   (32687)	
研究分担者	陣野 英則  (JINNO Hidenori)  (40339627)	早稲田大学・文学学術院・教授   (32689)	
研究分担者	山中 玲子  (YAMANAKA Reiko)  (60240058)	法政大学・能楽研究所・教授   (32675)	
研究分担者	梅沢 恵  (UMEZAWA Megumi)  (60415966)	神奈川県立金沢文庫・学芸課・主任学芸員   (82720)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 国際シンポジウム「古代・中世日本における廃墟の文化史」	開催年 2023年～2023年
---------------------------------------	--------------------

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------